

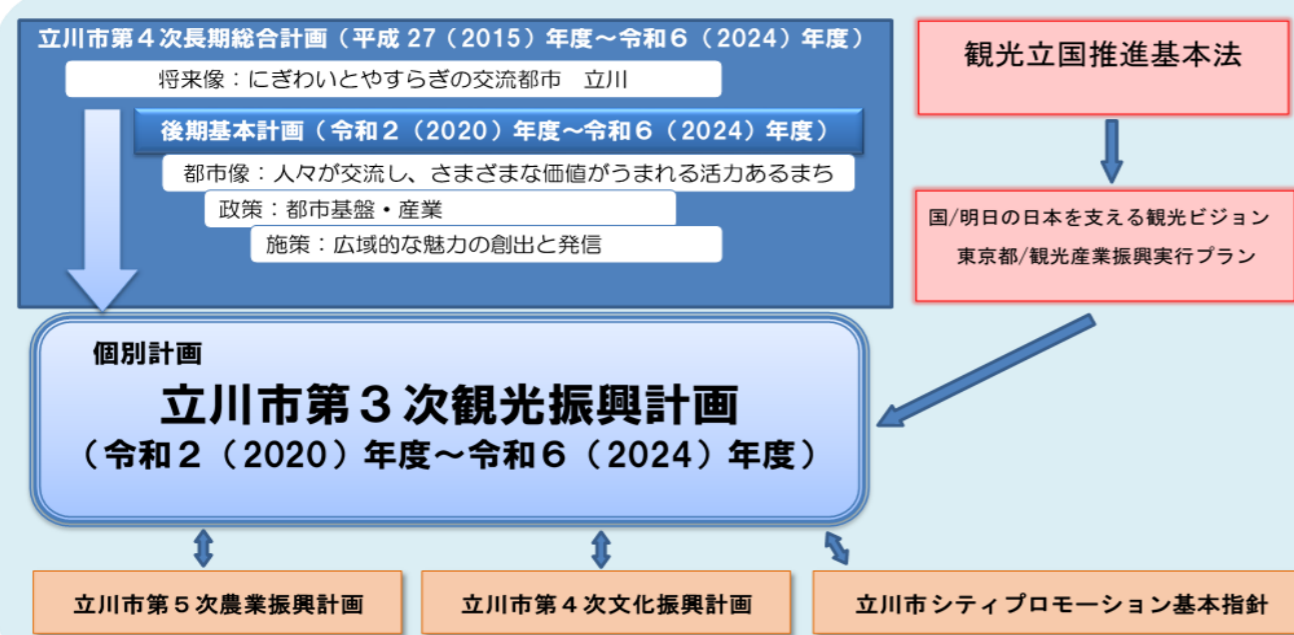
# 立川市第3次観光振興計画の概要

## 第1章 計画の策定

P 1

立川市第3次観光振興計画の策定の趣旨、計画の位置づけ、計画期間について記載しています。策定の趣旨、計画の関係図及び計画期間は以下のとおりです。

本計画は、立川市第4次長期総合計画に示されたまちづくりの将来像「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」の実現に向け、まちづくりの基本理念「積極的なシティプロモーションの展開」等の考え方にに基づき、「広域的な魅力の創出と発信」を具現化する個別計画として策定し、計画期間は令和2(2020)年度から令和6(2024)年度までの5年間とします。



## 第2章 立川市における観光振興の必要性

P2~4

立川市の将来見通しと、観光振興の必要性についてまとめています。

<将来見通し>人口減少、少子化・高齢化  
⇒「生活関連サービスの縮小」「税収減による行政サービス低下」「地域公共交通の撤退・縮小」「空き家、空き店舗、工場跡地」の増加「地域コミュニティの機能低下」

市民の生活利便性の低下、地域の魅力の低下による悪循環を防ぐために、定住人口の確保と交流人口の増加を図ることで、本市の発展と周辺地域への活性化にも寄与しつつ、持続可能なまちづくりを進めていく必要があります。

## 第3章 立川市が目指す将来像

P 5

観光振興により目指す将来像を掲げています。

<観光振興により目指す将来像>  
**「あなたの“好き”と出会えるまち 立川」**  
○観光による来訪者の増加により、まちのにぎわいと活力を生み、地域を活性化  
○市民も地域への愛着と誇りをもつ

「住みたいまち」  
「訪れたいまち」の実現

## 第4章 観光振興の動向

P6~14

国や東京都、旅行の動向についてまとめています。

国・都ともに、観光産業を重要な成長産業と捉え、積極的な支援を行っている。

<国> 訪日外国人旅行者数 数値目標 平成30(2018)年 3,119万人  
→ 令和2(2020)年 4,000万人、令和12(2030)年 6,000万人(目標値)

<都> 訪都外国人旅行者数 平成28(2018)年 1,424万人  
→ 令和2(2020)年 2,500万人、令和6(2024)年 3,000万人(目標値)

<旅行>

○世界の旅行者数は今後も増加が続くと見込まれ、訪日・訪都外国人旅行者も増加傾向。  
○多摩地域への外国人旅行者は、都心部と比べ送客が進んでおらず、立川市は都内全体で1.3%の割合となっている。一方、西多摩地域の観光客数は近年増加傾向にあります。

## 第5章 立川市の現状と課題

P15~26

立川市第2次観光振興計画(平成27(2015)年度策定)の進捗状況、来訪者の傾向、観光資源、イベント等の状況、観光振興の推計値、観光振興における課題について記載しています。なお、目標値の達成状況と課題は以下のとおりです。

平成30(2018)年度の実績値は、着実に増加傾向だが目標値には及んでいない。

○中心市街地の来訪者数  
4,280万人(平成31(2019)年度の目標値) → 4,200万人(平成30(2018)年度実績値)  
○観光関連消費の増加額  
63億円(平成31(2019)年度の目標値) → 43億円(平成30(2018)年度実績値)

観光振興における課題

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| (1)観光資源の発掘、魅力の向上 | (2)立川という都市イメージの確立 |
| (3)情報発信の強化       | (4)外国人旅行者への対応     |
| (5)市民協働の推進       | (6)定量的目標の設定       |
| (7)広域観光の推進       |                   |

立川市が目指す将来像「あなたの“好き”と出会えるまち 立川」の実現に向けた取り組みの方向性を示す、観光振興の基本方針と戦略についてまとめています。

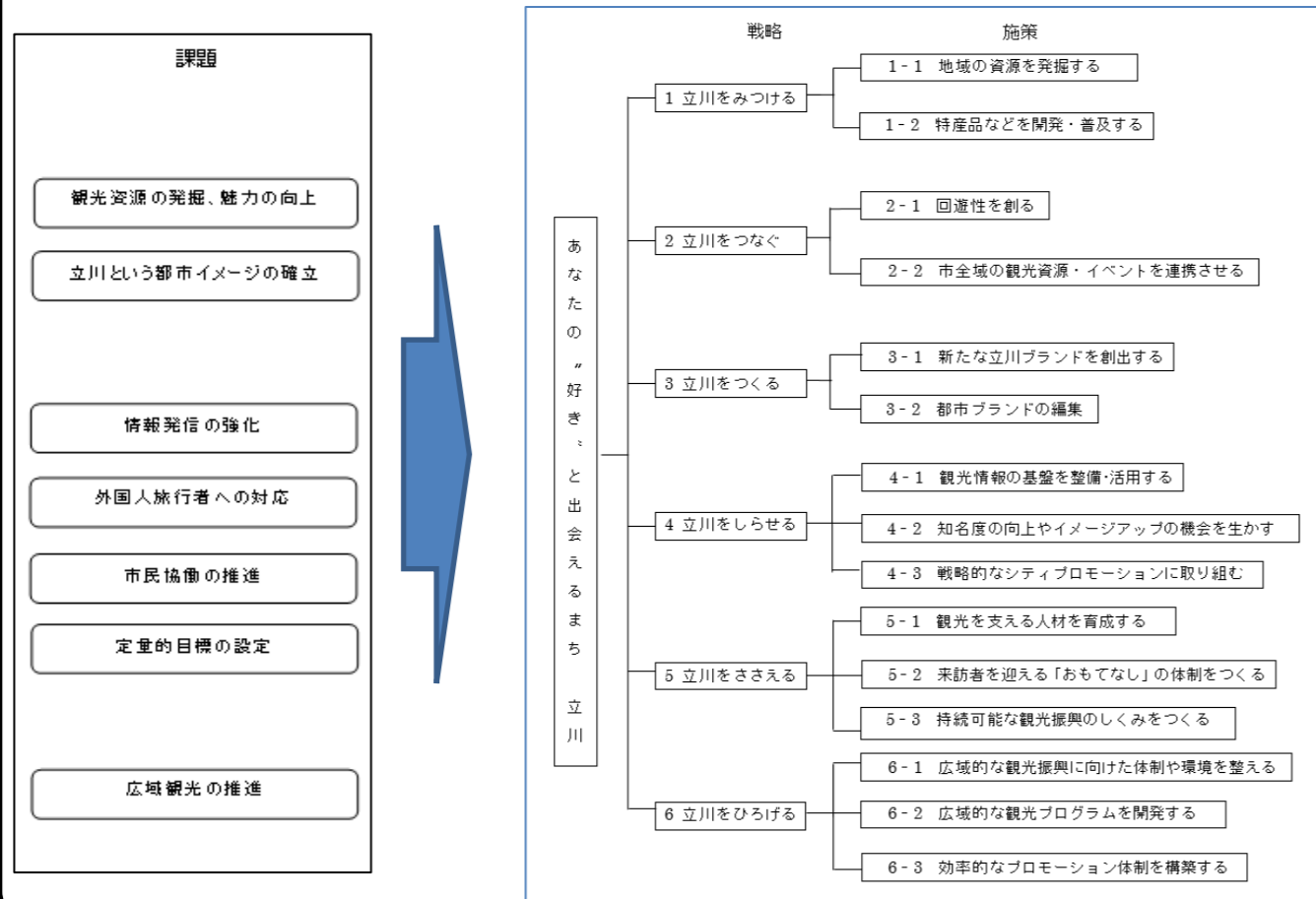
＜観光振興の定量的目標＞  
令和6(2024)年度に達成すべき  
観光振興の目標値

◆4,290万人の観光客及び来訪者を迎えます。

◆61億円の観光関連の消費拡大を目指します。

＜基本的視点と戦略＞

○下図(A)～(C)の3つの視点のもと、1～6の6つの戦略を設定し、具体的な観光振興における課題解決に取り組みます。



1 立川をみつける

- 1-1 地域の資源を発掘する (観光振興の視点から地域資源を発掘するとともに情報を共有し、観光資源を開発する)
  - (1) 新たな観光体験プログラムの開発
- 1-2 特産品などを開発・普及する (さまざまな資源を磨き上げ、組み合わせ、魅力的な特産品などを開発し普及する)
  - (1) 立川観光協会推奨認定品の拡充

2 立川をつなぐ

- 2-1 回遊性を創る (観光目的に合わせて立川を楽しめる歩行者空間や移動手段などを整備する)
  - (1) 観光ルートの開発・活用 (2) サンサンロードの新たなマネジメント手法の検討 (3) 諏訪の森広場の活用促進
- 2-2 市全域の観光資源・イベントを連携させる (さまざまな観光資源を組み合わせ、広域的な集客力を持つ観光資源を開発する)
  - (1) 新たな連携事業の実施 (2) 立川プロスポーツ連絡会との連携

3 立川をつくる

- 3-1 新たな立川ブランドを創出する (立川を象徴する観光資源を創出する)
  - (1) 「文化・芸術のまちづくり」を観光資源として磨き上げる (2) 新たな集客エリアを活用したまちづくりの推進
- 3-2 都市ブランドの編集 (立川の都市イメージを確立し、立川ブランドを統一的に発信できる環境をつくる)
  - (1) ブランドメッセージの活用

4 立川をしらせる

- 4-1 観光情報の基盤を整備・活用する (情報発信力を強化するため、観光情報基盤を整備する)
  - (1) 観光ポータルサイトの構築 (2) 観光案内所機能の整備
- 4-2 知名度の向上やイメージアップの機会を生かす (多様な資源、活動、イベントなどの機会を有効に活用し、立川の知名度を向上させる)
  - (1) アニメ・ドラマなどのコンテンツ活用を強化
- 4-3 戦略的なシティプロモーションに取り組む (マーケットとターゲットを絞ったシティプロモーションを展開し、効果的な誘客活動を進める)
  - (1) デジタルマーケティングに基づいたシティプロモーションの展開 (2) MICEとの連携 (3) 市民全体での取組強化

5 立川をささえる

- 5-1 観光を支える人材を育成する (観光振興で活躍できる人材を育成する)
  - (1) 観光ガイド・ボランティアの育成と確保 (2) 観光専門人材の確保
- 5-2 来訪者を迎える「おもてなし」の体制をつくる (立川を訪れる人々が、安心してまちを楽しめる体制を整える)
  - (1) ひとにやさしいまちづくりの推進 (2) 外国人観光客への対応の充実
- 5-3 持続可能な観光振興のしくみをつくる (観光振興への取組に経済的に持続可能なしくみを取り入れる)
  - (1) 観光振興のための自主財源確保 (2) データに基づくマネジメント体制の構築

6 立川をひろげる

- 6-1 広域的な観光振興に向けた体制や観光を整える (おもてなしのバリアフリー化を進めるため、目に見えない行政域を超えた広域的な観光振興の連携に取り組む)
  - (1) 広域的な連携体制の確立 (2) 広域周遊環境の整備
- 6-2 広域的な観光プログラムを開発する (魅力ある観光資源を効果的に活用するため、広域的な連携による観光プログラムを開発する)
  - (1) 日帰り周遊・宿泊周遊プランなどの開発等
- 6-3 効率的なプロモーション体制を構築する (全国・全世界を視野に入れた、広域連携によるプロモーション体制を構築する)
  - (1) 情報発信機能(インターネット、機関誌など)の強化

推進体制の整備、各主体の役割りについてまとめています。

市、立川観光協会など各種団体、市民(地域)、事業者など各主体が、それぞれの特性を生かした役割分担をすることにより、強固な連携体制を構築し、一丸となって取り組む必要があります。

立川市第3次観光振興計画協議会の資料を掲載しています。

- 立川市第3次観光振興計画協議会設置要綱
- 立川市第3次観光振興計画協議会委員名簿
- 事務局名簿
- 立川市第3次観光振興計画協議会開催状況